

東名阪自動車道滝ノ水工区に本格採用 SQS工法（CVスプレー） SQS工法（CVスプレー工法）が本施工に移行

現在着工している東名阪自動車道は名古屋環状2号線の東南部にあたる名古屋I.C高針JCT～名古屋南I.C間、路線延長約12.6kmの区間です。名古屋市東部近郊の住宅地を南北に縦断することから、計画の約60%にあたる7kmは掘割構造で計画されております。

その内の一部BOX構造部分を合わせて、約1kmの滝ノ水工区にSQS工法（CVスプレー工法・先付け工法）が採用されました。

本工区では当初ゴムアスファルトシート防水を予定しておりましたが、工期短縮が最重要課題となり工法の変更が検討されました。SQS工法は昨年より検討対象となり、本年1月より試験施工を行ってまいりました。8月に入り既に工区境の施工が完了している南側隣接工区の鳴海工区に施工されたゴムアスファルトシート及びEVAシートとの接着・水密試験においても良好な結果が得られたことにより、本施工への移行が決定いたしました。

今回SQS工法が検討され、採用に至りました最大要因には、

1. 工期短縮
 2. 防水工法に対する信頼性による漏水リスクの低減
- が挙げられます。

今後、住宅地域を通過する道路建設において、コスト削減や施工中の騒音・振動の抑制、また景観に配慮した掘割構造が計画された時、今回の首都圏以外での工法採用は大きな防水実績になることと思います。

現在、施工は㈱大阪防水建設社名古屋支店により順巻部分・底部及び側部から順次・順調に進められております。

中部営業所 所長
SVリーダー 杉島 明人



スケールの大きな現場で工期短縮を可能にするSQS工法

【工事概要】

工事名 : 東名阪自動車道滝ノ水工事
 発注者 : 中日本高速道路㈱名古屋工事事務所
 元請 : 大成建設㈱・東急建設㈱・㈱福田組JV
 施工 : ㈱大阪防水建設社名古屋支店
 仕様 : SQS工法（CVスプレー工法・先付工法）
 完成 : 2011年末
 施工規模 : 底部 約21,500㎡
 側部 約17,000㎡
 頂部 約17,000㎡



名古屋市東南部の丘陵地帯を掘割・トンネルで結ぶ東名阪高速道路。完成を目指し工事が急ピッチで進められています